



議  
論  
推  
理  
之  
法

全

和装本

□ 6

312



二酉散人著

議論推理之法

全

明治二十年刻

二酉軒藏梓

議論推理之法

東京

醍醐忠順

著

議論

ニ法

ナカル

可カラ

ズ法

ナケレ

バ喧嘩

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

バ喧嘩

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

ニ均シ夫レ人小六ケ敷キ話

ヲ聞ク

ヲ欲セズ小面例ナル書物ヲ

ヲ欲セズ小面例ナル書物ヲ

ヲ欲セズ小面例ナル書物ヲ

ヲ欲セズ小面例ナル書物ヲ

ヲ欲セズ小面例ナル書物ヲ

ヲ欲セズ小面例ナル書物ヲ

ヲ欲セズ小面例ナル書物ヲ

讀ム

ヲ好マザルハ通情ナリ故ニ我

ヲ好マザルハ通情ナリ故ニ我

ヲ好マザルハ通情ナリ故ニ我

ヲ好マザルハ通情ナリ故ニ我

ヲ好マザルハ通情ナリ故ニ我

ヲ好マザルハ通情ナリ故ニ我

ヲ好マザルハ通情ナリ故ニ我

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

ガ邦結構ナル議論法ノ傳來アルモ

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

閣テ讀マズ知ラザル者多々ナリ我

仁  
901

議論

門仁6  
9/2  
卷

議論推理之法

一

モ即チ其一人ナリ傳へ聞ク大岡越  
前守此ノ法ヲ學ビ得テ裁判明亮又  
夕宇治左大臣頼長公モ此ノ道ノ達  
人ナルヲ載テ大日本史ニ在リト或  
著書ニ  
見ユ  
又夕右ノ議論法ノ外ニ學問ノ學問  
トモ謂フベキ結構ナル推理ノ法ア  
リ近年傳來該書續々出ヅ知ル人ハ

知ル可シ唯ダ其ノ一端ヲ窺フモ結  
構ノ法ト言ハザルヲ得ズ夫レ人天  
性理非曲直ヲ判ズルノ能力アリト  
雖モ其レハ真ニ淺近ナルモノナリ  
少シク入<sup>イリ</sup>込<sup>コミ</sup>タル理ニ至リテハ學識  
アル智者ニ非ザレバ得テ判ズ可ラ  
ズ又夕其ノ學識アル智者ノ判断ト  
雖モ其實ハ規矩或ハ定<sup>ヂヤキ</sup>木ニ當<sup>アテ</sup>テ見

ザレバ曲<sup>マカ</sup>リノ有無ハ猶ホ分ラズ不  
 安心ナリ譬ヘバ紙ヲ裁<sup>タツ</sup>ニモ上<sup>シヤウ</sup>手<sup>ズ</sup>ノ  
 人ハ定<sup>ヂヤウ</sup>木<sup>ギ</sup>ナクトモ真<sup>マ</sup>直<sup>スグ</sup>ニ裁<sup>タチ</sup>切<sup>キ</sup>ル可  
 シト雖モ其レハ十人ニ一人モ有ル  
 一<sup>オボ</sup>覺<sup>ツカ</sup>束<sup>ツカ</sup>ナシ並々ノ人ハ矢<sup>ヤ</sup>張<sup>ハ</sup>リ定木  
 ヲ用ヒテ裁<sup>タ</sup>ザレバ真直ニハ裁<sup>タチ</sup>切<sup>キラ</sup>  
 レザルナリ尚ホ定木ヲ用ヒテモ我  
 ガ輩ノ如キガ裁<sup>タツ</sup>ハ兎角ユガミ易シ

該ニ法ニモ卅三過ト八箇ノ定則ト  
 云フモノ有ルモ尤モナリ何ヲ為ス  
 モ容易ナラザル者ナリ然<sup>サ</sup>レトモ定  
 木ヲ用ヒルト用ヒザルト孰<sup>マ</sup>レカ優<sup>マサ</sup>  
 ル無論定木ヲ用ヒル方優<sup>マサ</sup>ルナラシ  
 然<sup>サ</sup>レバ一ツ其ノ定木誰レモ欲<sup>ホ</sup>シキ  
 者ナラズヤ定木ホシキ者トハ議論  
 又ハ推理ヲ質<sup>タツ</sup>スニ當<sup>アテ</sup>ハメル可キ即

チ該ニ法ヲ誰レモ學知シタキ者ナ  
リト言フニアルナリ

先達ノ著述ニ出ヅル一二例ヲ引キ  
並ビニ新例ヲ作シチヨト一寸言ハシニ

アレハ火事ナル可シ主意

大變煙ノタツ故ニ譯

先年芝ノ増上寺ノ本堂ノ焼ケ

シ時ノ如シゴト諭タト

ト述べ言へバ誰レモ其レハ火事ニ

相違ナシトガ合テ點シテイヤク其レハ

藁灰ヲ燒クナル可シト疑フ者モ無

ク直スグイカニモト聞取ル可シ夫レ

モノハ言ヒ様ニ依ル者ナリ

畢竟左ノ如シ

第一 何ハ何々ナル可シ主意

第二 何々ナル故ニ譯

〔第三〕 何ノ如シ喩

右ノ如キ用ヒ方ノ語ニモ此三許リ  
モ疵キズ出來キ易キ者ナレドモ夫レハ  
該専門書ニ就テ學ブベシ茲ニハ謂  
ハズ

〔第一〕 本日ノ議案中第何百何十  
何号ハ何々ト修正アリタ  
シ主意

〔第二〕 第何十何号ト矛盾スル故

〔第三〕 前會既ニ第何号ト第何百

何十号ト矛盾スルノ故ヲ  
以テ修正アリシ喩

トイヘバ間然スル者ナカルベシ若  
シ有リトモ其ノ比喻正シケレバ動  
カス可ラザルナリ

第一 今日夜ニ入ラバ月明アキラカナ

ル可シ主意

第二 一天雲ナキガ故ニ譯

第三 蒼海ノ如シ喩

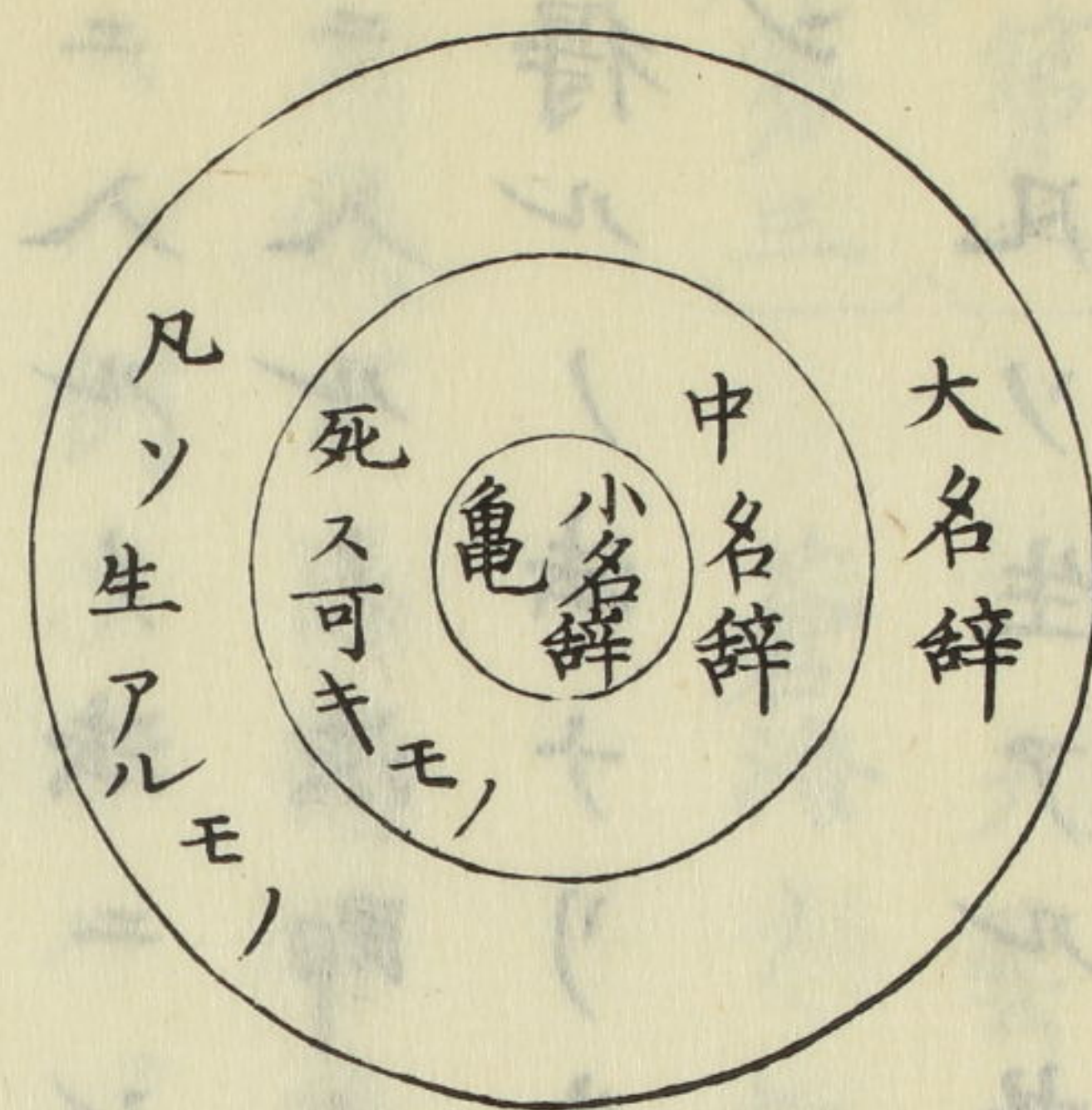
又夕我が思想言辞文章中ニ於テ推  
理スル例ヲイハバ左ノ如シ  
但シ推理スルニ二法アリ一ハ大

ヨリ小ニ及ブ法即チ綱ニ因テ目  
ニ入ルノ法ニシテ一ハ小ヨリ大  
ニ入ルノ法即チ目ヲ推シテ綱ヲ  
得ルノ法ナリ先ヅ一ヲ擧テ謂ハ  
シ

凡ソ生アル者ハ。死ス可キ者ナ  
リ原理

龜ハ。生アル者ナリ事實

故ニ亀ハ。死ス可キ者ナリ 判断  
此レヲ圖ニ顯ハス左ノ如シニ以下之  
做フ之



右 亀ニモ 鶴ニモ 限ラザレトモ 其

ノ一事物ヲ差シテ言フ故ニ狭マ  
ク小サシ因テ小圈トシ小名辞ト  
イフ又タ前置語中亀アル語ヲ小  
名題ト名ヅク且ツ亀ハ死スベク  
生アルベキ故ニ死ノ中圈ト生ノ  
大圈ノ内ニ籠<sup>コモ</sup>レリ又タ死ノ中圈  
ハ生ノ大圈ノ内ニコモレリ生ア  
ル故ニ死モ亦タ有ル者ナレバナ



リ死ヲ中名辞ト名ヅク又夕生ヲ  
大圈トシ大名辞トイヒ又夕其人  
名辞アル前置語ヲ大名題ト名ヅ  
ク推テ知ル可シ  
畢竟左ノ如シ

- 第一 中名辞 甲ハ 大名辞 乙ナリ 理原
- 第二 小名辞 丙ハ 中名辞 甲ナリ 實事
- 第三 小名辞 故ニ 大名辞 丙ハ 大名辞 乙ナリ 判断

右ハ正格ノ一例ナリ他ハ之ヲ略ス

- 第一 中名辞 甲ハ 大名辞 乙ナリ 理原
- 第二 小名辞 丙ハ 中名辞 甲ナリ 實事
- 第三 小名辞 故ニ 大名辞 丙ハ 大名辞 乙ナリ 判断

- 第二 小名辞 東京人ハ 中名辞 皆ナリ 日本人ナリ

- 第三 實事 故ニ 小名辞 東京人ハ 大名辞 皆ナリ 亞細亞

同格

第一

似中名辭テ非ナル者ハ大名辭真ヲ賊スル者ナリ原理

第二

某ハ小名辭似中名辭テ非ナル者ナリ實事故ニ小名辭某ハ大名辭真ヲ賊スル者ナリ

第三

リ判断

同格

第一

甲國ヨリ輸入スル貨物が乙國ヨリ輸出スル貨物ニ

同格

第二

超過スル一累年ナレバ大名辭乙國ニ於テハ正金闕乏スル者ナリ原理小名辭外國ヨリ某國ニ輸入スル貨物ハ中名辭輸出スル貨物ニ超

第三

過セリ事實故ニ小名辭某國ニ於テハ大名辭正金闕乏セザルヲ得ザルナリ判断

同格

〔第一〕

凡中名辭ソ有益ノ書物ハ大名辭讀ム可

キ者ナリ原理

〔第二〕

論語小名辭孝經ノ如キハ中名辭有益ノ

書物ナリ事實

〔第三〕

故ニ小名辭論語孝經ノ如キハ大名辭讀

ム可キ者ナリ判断

同格

尾崎行雄氏が著書ニ云フ

盆成括、齊ニ仕フ。孟子之ヲ評シテ曰

ク、死ナシ矣。盆成括、盆成括、果シテ殺サル、

門人怪シテ之ヲ問フ。孟子曰ク、其為

久也。小有才、未聞君子之大道也。即足

以殺其身而已矣。ト孟子既ニ小有才、

未聞君子之大道者ハ、足以殺其身理原

ヲ知リ又夕盆成括ハ、小有才、未聞君

子之大道者實ナルヲ知ル故ニ盆成  
 括ノ足以殺其身断判ヲ知レリ是レ純  
 然タル三段論證ニ非ズヤ小有才未  
 聞君子之大道ノ害以テ足殺其身理原  
 ヲ知ラズンバ盆成括ノ死スルヲ豫  
 知ス可ラズ設ヘ之ヲ知ルト雖モ盆  
 成括ノ小有才未聞君子之大道者實事  
 ナルヲ知ラズンバ亦其死スルヲ豫

知断判ス可ラス孟子能ク彼理原ヲ知リ  
 是事ヲ知ル故ニ死ナシ矣盆成括ト断判断  
 言スルヲ得タリ  
 今一順序ヲ正シテ之ヲ書スレバ左  
 ノ如シ

第一

中名辞

凡其為人也小有才未聞君  
 子之大道者大名辞足以殺其身也

理原

第二

小名辭盆成括者。中名辭其為人。也。小有才

第三

未聞君子之大道也。實事故。小名辭盆成括者。大名辭足以殺其身

也。斷判

同格

第一

中名辭凡ソ國ニ功有ル者ハ。大名辭賞ス

第二

可キ者ナリ。小名辭彼ハ。中名辭國ニ功有ル者ナリ。實事

原理

第三

故ニ。小名辭彼ハ。大名辭賞ス可キ者ナリ

斷判

推理法中ノ反對ノ一法左ノ如シ

第一

小名辭金銀銅ハ。大名辭熔解スル者ナリ

斷判

第二

小名辭金銀銅ハ。中名辭金屬ナリ。事實

第三

故ニ。中名辭金屬ハ。大名辭熔解ス可キ者

議論推理之法

ナリ原理

同格

一ツノ鶴モ死セリ一ツノ亀モ死セ  
 リ一ツノ象ザウモ死セリ一ツノ蛇モ死  
 セリ三浦大双モ死セリ武内宿祢モ  
 死セリ故ニ吾ガ知ラザル者ハ暫ク  
 閣サシガキ知ル限りノ右ノ類悉ク死セシ  
 ヲ以テ先ツ假リニ意中ニ判断ヲ下タ

シテ左言ハン

〔第一〕

小名辞 鶴 大名辞 亀象蛇 三浦大双 武内宿  
 祢ハ。死スル者ナリ判断

右ヲ以テ考へ其事實ヲ汎称スレバ

左ノ如シ

〔第二〕

小名辞 鶴 中名辞 亀象蛇 三浦大双 武内宿  
 祢ハ。皆生アル者ナリ事實

右ノ理ヲ推ストキハ其歸著スル原

理左ノ如シ

〔第三〕中名辭凡ソ生アル者ハ大名辭皆ナ死ス

可キ者ナリ原理

同格

〔第一〕小名辭犬モ猫モ雀モ蛇モ大名辭皆ナ感

覺ヲ有セリ判断

〔第二〕小名辭犬猫雀及ビ蛇ハ中名辭皆ナ動物

ナリ事實

〔第三〕故ニ凡テノ動物ハ皆ナ感

覺ヲ有セシ原理

右ハ少シニテモムカ六ケカ敷カラヌヤウ

平易ヲ肯トシ唯ダ該ニ法ノ有ルヲ

知ヲ令ニ為メナリ因テ殊更該ニ法

ノ名ヲダニ謂ハズコム六ケカ敷クシ小面

倒ナルトハ人好マサル通情ヲオモシ慮レ

ハナリ

明治二十年七月十五日

著者識

但シ七月十一日筆ヲ夕テ同月

十五日夜書綴了其粗漏モ知ル

ベシ可恥々々

明治二十年八月九日版權免許  
同 年同月出版

著者兼出版人

華族侯爵

醍醐忠順



東京府平民

磯部太郎兵衛

東京府麹町區麹町四丁目  
十三番地

同

石塚徳治郎

東京府同區同甲三丁目  
十七番地

發賣書肆

同



